

大腸内視鏡について

内科 宮本 亮

4月より広島大学病院より赴任しました宮本亮と申します。消化管診療が専門であり、今回は大腸内視鏡についてお話をさせていただきます。

増え続けている大腸がん

最近、大腸がんの増加が報告されています。大腸がんは、男性の死因の2位・女性の死因1位であり、最も警戒しなければならないがんの一つです。大腸がんが進行すると、腸管の中で腫瘍が増大することで便通が悪くなったり、便がこすれて出血したりしますが、早期の段階ではほとんどの方が無症状です。

40歳以上の方は一度大腸カメラを！

一方、ほとんどの大腸がんは大腸ポリープの増大によるものとされており、大腸カメラで大腸ポリープを早期に発見し切除することで大腸がんの予防が可能です。大腸カメラさえやっておけばがんが予防できるというのは肝臓や膵臓などの他の臓器と違う最大の特徴の一つです。

健診で便潜血という検査があり、陽性だと大腸ポリープや痔など何かしらの大腸疾患が考えられるため大腸カメラを受けるようになっています。しかし大腸疾患があっても便潜血陰性という検査結果になることもあり、40歳以上の方は便潜血の結果が陰性でも一度大腸カメラを受けてみることをお勧めします。

当院での内視鏡について

大腸ポリープは6mm以上で大腸がんのリスクが出現し、10mmを超えると担がん率が3割程度といわれています。当院では5mm以上の大腸ポリープは積極的に切除をしており、基本的に一泊入院していただいています。内視鏡切除の方法は、ポリープの根元に液体を注入し、浮き上がったところ金属の輪で縛って通電し切除する、というものです。基本的に治療で疼痛が出現することはありません。心筋梗塞や脳梗塞の疾患で抗血栓薬を内服されている患者さんが増えており、術後出血に十分に配慮する必要があります。

また、当院ではオリンパスの最先端の内視鏡が導入されており非常に高画質であるため、従来と比較しても大腸病変がかなり見つけやすくなっており患者さんのメリットにつながっています。

大腸カメラが不安な方へ

まだ大腸カメラを受けたことがなく不安な方、以前うけて盲腸まで到達するのが難しかった方、痛みが強かった方などおられると思います。当院ではそのような方は鎮静剤を用いることで痛みの少ない内視鏡検査となるよう提案しています。「起きたら検査が終わっていた」という方が大変多いです。大腸がんで苦労される方が一人でも少なくなるよう努力していきたいと思っています。



オンライン面会を行っています。

予約制となっておりますのでご希望の方は
公立世羅中央病院 ☎0847-22-1127へお問合せください。

